

1995-40



発行 株式会社 径書房  
東京都新宿区南元町二-3  
TEL03-3350-5571 FAX03-3350-5572  
振替 00110-7-32726

### 売春する自由

橋爪大三郎

たとえば、「あなたには売春する自由がある」と言われたら、どう感じるだろうか。おそらく、ほとんどの人がとまどいを覚えるにちがいない。しかし、よく考えてみると、「売春はよくない」という漠然とした思いはあるものの、「だれにも迷惑をかけず、しかも自分の自由意志

で売春をして、どこが悪いの？」と聞かれたら、妙に道徳的な答えしかできない自分に気づくのではないだろうか。橋爪大三郎さんは、江原由美子編『フェミニズムの主張』（勁草書房）の中で「売春のどこが悪い」と題する原稿をお書きになっている。それを読んで私たちが

は、売春に関するさまざまな疑問について「ああ、そうなのか、こう考えればいいんだ」と、気づかされたように感じた。つまり、今まで私たちは、売春に関して「ほんとうに問題にすべきことを考えず、そのまわりをぐるぐるともわつていただけだ、と教えられたように思っていた。そこで、橋爪さんに、売春の問題についてお話しいただき、同時に橋爪さんから考え方の技術をも学びたいと考えて、このインタビュを企画した。

#### ▼思考のルート

編① まず、「売春のどこが悪い」という原稿をお書きになった理由についてお聞きしたいのですが。

橋爪 そうですね。売春はよくないという言い方に対して、私も腑に落ちないものを持っていました。そういう言い

ですけれど、私流に簡単に言いますと、相手を「物」として見るということは性愛という現象の本質に属します。むしろ、そう見なければいけない。それが性という現象の一番根本的なところなわけですね。そのプロセス（家族のあり方が、性の商品化というか、売春のあり方と、まったく折り合いが悪い。

#### ▼直感的な嫌悪感

橋爪 それでね、次に疑問になったのは、売春について突き詰めて考えると、悪いということ証明できないのにもかかわらず、どうして世界中の人々が「売春はよくない」と直感的に思うのだろうか、ということですね。証明できない不確かなことを世界中の人が信じているっておかしいでしょう。それにはなにか理由があるはずだと考えたんです。

#### ▼市場の原理

橋爪 他人というのは、もともと自分が積極的に関係のとおりようがない人たちだったわけですね。しかし、そこに市場という可能性があると、他人との関係が社会を組織する大きな力になりえて、社会をどんとんる振っていく。簡単に言うと、だれでも欲しがらるお金というものが社会の中に生まれた途端に、社会のあり方が変わったわけですね。

家族とはモラルの固まりなんです。でも、その家族のモラルは、家族のメンバーである少数の人間に対して責任をとるということで、他人とは切り離されている。他人との間には、そういう関係がないんです。

#### ▼家庭のモラル

橋爪 家族には必ずモラルというものがかくついています。どうしてモラルがかくついているかというと、まず家族の核には結婚というものがあつて、結婚は、モラルでできているわけですね。あとからもっといい人が現れたからといって、好き勝手に、つきつきと相手をとるかえたりしたら、それは結婚ではないわけですね。結婚というのは、「これでいいや」と思

#### ▼売春の動機

橋爪 家庭というのは抑圧的なものです。とくに子どもにとっては抑圧装置以外の何物でもない。子どもは非常に理不尽な状態に置かれるわけですね。結婚はしなければいけない。ということが性は性に対する関心がなければならぬ。しかし、その社会にはその社会なりの男女のモラルというものがあり、好むから、そのモラルをわきまえず、好き勝手にふるまうてはいけない。モラルを守りつつ行動し、次の時代の家庭を担うために結婚しなければいけないわけですね。

#### ▼副次的な議論

橋爪 売春はよくないという言説には管理売春がいけないというのもあり、管理売春は、だれかがピンハネしているという搾取の問題ですね。それから、性病がうつるので衛生上よくないという言説もあります。こういうロジックの裏を返してみれば、もし管理売春がいけないというのであれば、中間搾取がなくなれば売春はいいということになります。性病が悪いというのであれば、性病の蔓延が防がれるのなら、売春そのものは問題でなくなるということになります。いずれも

売春そのものでなしに、それにまつわることを問題にしているだけなんです。売春そのものが悪いということ証明してない。こうした、売春をめぐる副次的ななにかが悪いという議論は、すべて水に流せる議論だと思えました。そうやってずつと見ていくと、ほとんどの議論がそうだと気がつく。ほとんどの議論がたぶん、売春が悪いということを証明した人は、これまでにないんだ、と思つたわけですね。ここまでで私はフリーハンドで「売春がいいか悪いか」という結論をくだせる立場にたつた。途中まで書いて、そういうふうな思つたわけですね。

#### ▼市場の原理

橋爪 他人というのは、もともと自分が積極的に関係のとおりようがない人たちだったわけですね。しかし、そこに市場という可能性があると、他人との関係が社会を組織する大きな力になりえて、社会をどんとんる振っていく。簡単に言うと、だれでも欲しがらるお金というものが社会の中に生まれた途端に、社会のあり方が変わったわけですね。

#### ▼家庭のモラル

橋爪 家族には必ずモラルというものがかくついています。どうしてモラルがかくついているかというと、まず家族の核には結婚というものがあつて、結婚は、モラルでできているわけですね。あとからもっといい人が現れたからといって、好き勝手に、つきつきと相手をとるかえたりしたら、それは結婚ではないわけですね。結婚というのは、「これでいいや」と思

#### ▼売春の動機

橋爪 家庭というのは抑圧的なものです。とくに子どもにとっては抑圧装置以外の何物でもない。子どもは非常に理不尽な状態に置かれるわけですね。結婚はしなければいけない。ということが性は性に対する関心がなければならぬ。しかし、その社会にはその社会なりの男女のモラルというものがあり、好むから、そのモラルをわきまえず、好き勝手にふるまうてはいけない。モラルを守りつつ行動し、次の時代の家庭を担うために結婚しなければいけないわけですね。

#### ▼副次的な議論

橋爪 売春はよくないという言説には管理売春がいけないというのもあり、管理売春は、だれかがピンハネしているという搾取の問題ですね。それから、性病がうつるので衛生上よくないという言説もあります。こういうロジックの裏を返してみれば、もし管理売春がいけないというのであれば、中間搾取がなくなれば売春はいいということになります。性病が悪いというのであれば、性病の蔓延が防がれるのなら、売春そのものは問題でなくなるということになります。いずれも

#### ▼市場の原理

橋爪 他人というのは、もともと自分が積極的に関係のとおりようがない人たちだったわけですね。しかし、そこに市場という可能性があると、他人との関係が社会を組織する大きな力になりえて、社会をどんとんる振っていく。簡単に言うと、だれでも欲しがらるお金というものが社会の中に生まれた途端に、社会のあり方が変わったわけですね。

#### ▼家庭のモラル

橋爪 家族には必ずモラルというものがかくついています。どうしてモラルがかくついているかというと、まず家族の核には結婚というものがあつて、結婚は、モラルでできているわけですね。あとからもっといい人が現れたからといって、好き勝手に、つきつきと相手をとるかえたりしたら、それは結婚ではないわけですね。結婚というのは、「これでいいや」と思

「千すると尻軽娘というような噂がとびかかって、その人の社会的評価が低くなってしまう。非常にリスクが大きいわけですね。で、おとなしく親が紹介した人と結婚する、というふうになっちゃうわけですね。」

編① そうすると家庭のモラルがしつかりしてないと売春に走りやすいということになりますか？

橋爪 それは社会によりけりです。とても封建的で、だれもがその古いモラルに従って生きていくことが安全だと考えている社会ならば、そういう教育を受けるチャンスはなかった人が、売春という職業に入りやすいでしょうね。だけど、今みたいな時代だったならば、親がモラルを強調しすぎたために、「私はモラルに縛られないで生きる」ということを証明したくて、そういうことをしてしまっ、なんていうタイプのほうが、むしろ多くなるのかもしれない。

編① ああ、それはすぐわかるようないつて、その境界があいまいになってきた。女性も、いわゆる水商売の人とカタギの人のちがいが見えなくなりました。男性も女性もまったく対等に、ひとかたまりの人間というふうになってきたわけですね。

編① 昔は、色街にいた女性も、年季が明ければ普通の人というか、ふしだらとはみられなかったと思いますけど……。橋爪 ええ、昔、女性が二種類いた時は、それぞれ職業倫理というのがあったわけですね。家庭の奥さんには奥さんの倫理なりモラルがあった。それから、芸者娼妓には芸者娼妓の職業倫理があった。だから、そういう主婦と芸者が、おたがい意気に感じて投合するということもあつたと思います。要するに、それはポジションがちがうだけであつて、人間として真面目に生きていくには変わりないんです。

編① 私の知り合いに、実家が女郎屋だ

気がします。

橋爪 そういう動機を自分が自覚できなかった場合、たんに育ちが悪いというふうなことにされてしまう。それは本人にとつてもおもしろくない。メンツが丸潰れですから。で、それなりの意味づけをするわけですね。親が悪いとか、世間がよくないとか、モラルが古臭いとか、そういう正当化の論理を自分で探す。今はそういう形になつてくるんじゃないかと思ひますけど。

編① でも、いくら正当化しても、セクシャリティを売ること、不道徳であるというレッテルが貼られるわけですよ。それから解放される論理というのは可能なのでしょか？

橋爪 必ずかしらうでしょうね。昔はどうなつてたかという、ダブルスタンダード(二重の基準)でもって解決していったわけですね。遊廓があつた時代を考えると、男性は、ふだんはマジメでね、仕事も一生懸命やつていて。けれど、月

つたという人がいるんですけど、年季が明けたお女郎さんたちは、ほとんど普通に結婚していったと聞いています。橋爪 それは日本の特徴だと言われていますね。ヨーロッパではそういうことはない。モラルのでき方が形而上学的で、靈魂によつていられるわけですね。靈魂の種類によつて社会階層がわかるといふふうになつていられるから、売春をする人は靈魂のレベルが低いことになつちゃう。そうすると、年季が明けても靈魂が変わるわけではないので、結婚ができない。だから、むこうの高級売春婦は、ものすごく家に住んでいて、ものすごくお金があつたりするわけですね。そういう意味では、どんなにお金のない専業主婦よりも、ランクが下というふうになつていられるわけですね。

ただ日本の場合、モラルが場所論的(トポロジカル)にできているから、状況依存なんです。どんなにカタギの人でも、親が困つてね、手をついて「な

に一回か、年に一回かは知りませんけれど、ときどき遊ぶ。男性は、定期的にそういう変調をきたす動物であるというふうになつてきた。で、そういう季節がめぐつてきた時には、家庭の奥さんはしばらく目をつぶつてガマンしてないさ、そうすれば男性はまた帰ってくると言われていた。それは男の甲斐性とも言われていて、そのことによつて社会的な信用が傷つけないことになつてきた。つまり男性には、行動のルールが二重にあると社会的に理解されてきたわけですね。

女性にはそこまでの自由が認められなかつた。周期的に変な行動をするという社会的な理解がなかつたわけですね。しかし男性のほうダブルスタンダードでやつてますから、二種類の女性が必要になる。で、堅気の奥さんやお嬢さんと水商売の女性や売春婦というふうになり、必然的に二種類にわかれてしまうわけですね。でも、戦後はそれが変わつてきた。これは別のところで誰かが書いていたけれ

んとかここで百両の金をこしらえてくれ」みたいな話になると、「親の顔をたてなきゃならない」とか言つて、吉原に行つたりする。それは立派な行為なんです。だから当然、年季が明ければ、のほほんと暮らしている普通の娘さんよりも立派な女性ということになる。社会的にそういうふうな考えられていた。だから、明治維新の元勳と呼ばれる人たちの中にも、色街で馴染みになつた人と結婚したという人が多いわけですね。

▼高校生売春  
編① 話を少し戻しますが、「売春が悪い」ということは証明できない」とすると、ちょっと困つたことがあるんです。たとえば実際に売春をしている高校生の女の子に対して、どう接すればいいのかわからない。というの、今日、このインタビューにくる前に、怪書房の内部で、この問題についていろいろと話し合つてき

たんです。その時、アルバイトにきている教師志望の女子大生が、「生徒から自分の体を売つてどが悪いの」って言われたら説明できない」って言うんです。でも、「だからと言って、(いいよ、やりなさい)とも言えない」と。

6

橋爪 本人がやめようと思わないかぎり、だれもとめられないでしょう。  
編① しかし、教師というのは、ある意味では、生きていく上で必要な社会的なルールというの、[考え方の道すじ]みたいなものを教える役割も担つていますよね。で、心のどこかで「売春はよくない」と思っているのに、それが止められないというの、それは苦しい。

橋爪 それは、あなたがその子の何なのかによるわけですね。個人的にその人のごとをよく知っているならば、友人として関われる。家族だつたら家族として関われる。一般論なら一般論として関われる。つまり、三通りの関わり方があるわけですね。

「そのためにはこういうリスクを払う」ということが、きちんと比較衡量されているはずですね。  
でも、よく聞いてみると、どうしてもしたいことなんて、たぶん、なにもないんです。日本の場合、友だちもやつているからとか、なにかおもしろそうだからとか、若い時しかできないからとか、そういうことであつて、売春をしていられない。行為の合理性というものを突き詰めていられないんです。  
編① うーん。でも、「自分がなにをやりたいか」と考えたとしても、簡単にやりたいことなんてみつからないし、とらあえず遊んでいられるのは楽しいんだから、「合理性を突き詰めて売春をやめるといふところまでいかなければいけないかと思ふ」んです。

7

まず一般論として関わる場合に言えることは、「あなたには売春をする自由がある」ということです。ここで自由とは、権利という意味ではなく、自由意思という意味での自由です。「それをとめることは、私にもできないし、国家にも、親にも、だれにもできないだろう」と。そもそも、四六時中、監視しているわけにはいかなければならぬ。ただ、法律の問題があつて、売春防止法違反で摘発されれば、要保護婦女子——そういうことをするのは精神や身体に問題がある女性である——とみなされて収容施設に保護される。そこで手に職をつけさせて更生の道を歩ませるわけですね。そんなことで更生する人がいるとは思えませんが、その法律のことをちよつとだければ、「あなたには売春する自由がある。しかし、なぜそれをやるのか」ということを、あなたはよく理解する必要があります。それが、あなたが本当に一番したいことなのか」と、そういうことは言える。

よつとまつてくたさい、頭がこんがらがつてきた(笑)。えーと、教育というのは人格未発達の子どもたちに対して「考え方の道すじ」を示す、という役割もあるわけですね。人格未発達だからといって、つきはなすことはできない。橋爪 だから、売春をやりたいだけであつて、人格が未発達だから問題であるというふうな問題をたてればいけません。世間に流布している倫理観みたいなものを自分も背負つて「売春はよくない」と相手に投げかけても、あまり意味がない。まず第一に、それは論理的でない。相手が「それは自由である。どが悪い」と言つてきた場合に、必ず論破される。そういう倫理的な問題よりも、「なるほどわかつた、なぜオマエは売春がやりたいんだ」というふうにもつていつたほうがいいんじゃないかと思ひます。

編① あ、そうか。基本的な「問題のたて方」がまちがっているんですね。売春

▼人格未発達

橋爪 売春をする動機のひとつは、代価(お金)を得ることでしょう。たぶん、売春というのはワリがいいわけですね。ワリがいいというのは、よくない仕事だとみなされているからですね。多くの人が、できればやりたくないと思っている。つまり、「このことが社会に知られるとあなたの社会的評価が低くなるかもしれないよ」という危険手当を含めて代価が支払われているわけですね。

で、かりに金額が高くてワリがいいということが、売春する動機だということにしてみましょう。そうすると、その人の中には「売春は危険というリスクを冒してもやりたいなにか」があるはずですね。もしなにもなければどんなに収入がよくても、そんなことはほしくないでしょう。合理的に行動している自立した人格であれば、「自分がなにをやりたいか」ということと

の問題と人格未発達の問題をゴツチャに考えている。  
橋爪 ただしこれは、第三者として関わる場合ですよ。もし、これが友だちだつたら、相手の個性にたいして、いろいろ議論できると思う。それから親だつたら、無条件に怒るべきですね。

▼モラルの影  
編① ちょっと気になつたのですが、「売春をする自由はある」という考え方でいくと、家庭内のモラルというものに影響されない人間の方が可能である、ということにはならないでしょうか？  
橋爪 すべての人間は、いったん家庭のモラルから離脱するんです。  
編① ですが、それをひきまつていますよね。  
橋爪 もちろんひきまつていますよ。自分で新たに家庭を作る時に、それをもう一回選びとるわけですね。かりに、親が死

んで、兄弟もいなくて、たったひとりで  
なったとしますよ。一生結婚もしない  
そういう場合、ひとり生きていくわけ  
ですから、社会人としてのモラルが要求  
されるだけで、家庭人としてのモラルは、  
だれとの間にも作用しないでしょう。

編① たしかに家庭のモラルは意識しな  
くてすむのかもしれませんが、それでも  
それは激(お)りのように残っているとい  
う気がするんです。

橋爪 ええ、もちろんそれは文化として  
身につけている。

編① どうもそのところがスッキリし  
ないんです。つまり、だれもがもって  
いる家庭のモラルを超越した存在という  
のが考えにくいんです。

橋爪 家族のモラルといっても、すべて  
の人間に対して要求できるモラルでは  
ないんです。すべての人間を包んでい  
るわけです。すべりの人間に対してあらゆる場  
合に要求できるわけではない。相手が家  
族のメンバーだったら、そのモラルテイ

ーを要求できる。  
編① しかし、インタビューの前に怪書  
房でみんなと話したときも、ほとんどの  
人間が「やっぱり売春はよくないよ」  
と言うわけで……

橋爪 うん、よくないんですよ。売春と  
いうのは、家族という制度とともにある  
かぎり、そういうものなんです。  
編① そうすると「性を売っている」と  
いう自分自身の罪悪感も救われることが  
ないわけですかね？

橋爪 それは家族のモラルの影ですから  
ね。罪悪感を持つのは、行為そのものに  
原因があるんじゃないかと、家族のモラル  
と折り合いが悪いということに原因があ  
るんです。たとえば物を盗むということ  
は、その「物を盗む」ということ自体が  
悪であるコード化されているんです。  
ただで売春の場合は、そういうふうな  
コード化できない。だって、その当事者は、  
両者とも合意している、いいと思ってや  
っているわけですから。それでも、売春

が悪いと言われるのは、それとはべつな  
場所から判断基準が持ち込まれるから  
なんです。それは、その判断基準が持  
ち込まれる源泉はどこかといえば、家族  
のモラルなんです。家族のモラルに照  
らした場合に、その現象は悪く見ると  
いうことであって、それ以上でもそれ以  
下でもないと思います。  
編① 家庭のモラルから見た時に悪く見  
える？

橋爪 うん。だれでも家族のモラルを通  
過していますから、そのように考えるわ  
けです、本人を含めてね。だから悪いと  
思うわけです。だけど、その行為が刑法  
に違反しているか、市民社会の原則を踏  
みにじているか、と順番に考えていけ  
ば、その証拠はないんです。だから、な  
くならない。  
編① でも、家庭のモラルというのは社  
会のモラルとも通底していますよね。で  
「性を売ってはいけない」という家庭のモ  
ラルが多くの人々の合意だとするならば、

それは社会のモラルとも通底している。  
そういう合意を除外して、人間のありよ  
うを論じること、つまり「売春をする自  
由はある」ということは、むしろかしこ  
じやないかと思うんですが……  
編② だけど……

▼編集部、意見が割れる！

ここで突然、同席していたもうひと  
りの編集者(編②)が発言した  
ため、インタビュー同士の論争  
となっていました。橋爪さんに対  
しては大変失礼であるし、本来な  
ら割愛すべきところだが、掲載す  
る意味があると考え、そのままの  
形で収録させていただいた。

編② 私は橋爪さんの論理でごく救わ  
れるような気がする。ホステスのアルバ  
イトなんかをしていると、お客さんに  
「なんでこんなことやってるの、お父さ  
んやお母さんは知ってるの？」なんて言

われたりする。そこにお客として来てい  
るのにね。自分にも「性を商品化し  
ている」というしろめたさがあるから、  
よけいにカチンとくる。  
やっぱり社会の人々は、性を商品化し  
ている女性に対して、どこかで侮蔑的な  
感情を持っていると思う。まともな人間  
ではないって思っている。

で、そういうふうな社会の人々から見  
られていると、性を商品化している本人  
も、自分のことを「まともな人間では  
ない」と考えるようになってしまっ  
てしまう。「まともな人間ではない」とい  
うのは、全人格を否定されるのと同じだ  
から、かなり傷つく。それをくつがえそ  
うと思っても、なかなかできない。  
だけどもあなたは自分の性を商品化  
する自由がある」という前提から出発し  
て話をしてくれば、性を商品化してい  
るのも自分の選択の結果だから選択が間  
違っていると言われるかもしれないけれ  
ど、全人格を否定されるということとはな

い。だからそのぶんだけ自己肯定的にも  
なれる。  
それは人間が生きていく上ですごく大  
事なことだと思う。  
編① でも、自己肯定的になれるからと  
いうことの証明にはならないでしょう。  
たとえば、かつてアメリカで「ブラッ  
ク・イズ・ビューティフル」といって黒人  
たちが自分たちをたてなおしたよね。そ  
れまでブラックというのマイナスイ  
メージだった。それを「ブラック・イズ・  
ビューティフル」という言葉で逆転させ  
て、自己を肯定した。それは黒人たちに  
とって、とても重要な出来事だったと評  
価するけれど、「じゃあ、本当にブラッ  
クはビューティフルなの？」といえ  
ば、ブラックもホワイトもビューティフルだ  
ったり、そうじゃなかったりする。「ブ  
ラック・イズ・ビューティフル」という言  
葉は、彼らに過剰な誇りをもたせた。そ  
れは歪んだ誇りだよ。

10

編② 私は、売春するのが正しいと言っ  
てるわけじゃないの。ただやるならば、  
これは自分の選択の結果であると、きち  
んと引き受けてやったほうがいいと思  
うのよ。それは、自分の選択に対して自  
覚的になるということだけれど、そうす  
れば、選択をしないこともできるし、あ  
るいはいまの選択を引き受けていくと決  
めることもできる。  
売春をする「まともな人間ではない」  
自分を生きるよりも、家庭のモラルに反  
することになって、それが自分の選択  
の結果であると納得して生きていこうが個  
人にとってはよいことだと思うのよ。

性を売っているプロの人たち——アマ  
チュアの人はちがうだろうけれど——は、  
どこかでそういうふうな、自分の人生を  
引き受けているんじゃないかしら。  
私は、売春が正しいかどうかは別とし  
て、売春する人たちがよりよく生きる方  
法をきちんと考えていって、それが結果  
的に、「不本意な売春婦」を減らすこと

その場合、家族としてのモラルをある程  
度共有していなければ、おたがいに家族  
として生きていくことができないわけだ  
から言わなければいけない。  
それからあとひとつは、友人の場合で  
すね。友人関係は、友人であるというこ  
とをおたがいが選択しているわけだから、  
「その関係が続けたいのであれば、  
こういうことはしてくれない」と言うこ  
とができます。  
でも友人関係でも、場合によってはモ  
ラルを問わないこともある。たとえば、  
男女関係がハデで自分とは全然タイプが  
ちがう人でも、いい友達であるという  
ことは、よくありますよね。それは家族  
を営む必要がないからその部分のモラル  
を問わないでつきあえるんです。  
だから詳しく調べてみると、一人ひと  
りのモラルというのは、ずいぶんと形が  
ちがっていることもありえる。つまり、  
だれが一番モラルに合致しているかとい  
うことは、議論しても意味がないと思うん

ろくなればいいんです。そういうことの  
中で、売春の置かれてる位置っていうの  
はやっぱり変化していくんじゃないかと  
思います。身売りするしかなかった昔に  
比べて、今は売春の意味が全然ちがった  
ものになっている。だから、今後また

につなれば、一番いいように思う。  
編① でも、そういう考え方で売春が減  
るのかなあ。自分は売春婦を選択したん  
だ、つまり「正しい売春婦」だと思っ  
たとしても、社会の価値観からは、なかな  
か逃げられないよ。社会の価値観は自分  
の内側にあるもの。  
編② 確かに社会の価値観は、すごく大  
きいのね。でも、売春の是非よりも、  
メリット、デメリットを考えて、きちん  
と選択するようにすれば、やめる人が多  
くなるんじゃないかなあ。すごく楽観的  
かもしれないけれど……

▼文化的コードの定義権

橋爪 私なりに整理すると、自由意思と  
モラルの問題だと思えますね。  
自由意思は、本人がそれを選んでいる  
と言った場合、それが他人の自由意思を  
侵害しないかぎり否定できない。他人の  
自由意思を侵害する場合は刑法にふれる

です。モラルに合致しないというのは、  
文化的なコードに違反するという意味で  
すね。そうすると「文化的なコードの定  
義権」というのはあなたにあるのか、私  
にだって文化的なコードの定義権はある。  
私はいいと思ってるんだ」と言  
われた場合、どっちが正しいのかという  
ことになってしまふ。本人の中で折り合  
いがついていければ、それでいいんじや  
ないでしょうか。

▼自己決定

橋爪 今の社会は、人々の前にいろいろ  
な行為の選択肢をならべますよね。売春  
というの、その手軽に始められる選択  
肢のひとつになってしまったんです。そ  
れが選択肢であるということも否定する  
ことは、もう現在の社会ではできないと  
思います。だから、どうやってたらこの現  
状が変わりうるかという、その行為を  
選択する本人が変わるか、行為の選択肢

意味がちがったものになっていくんじや  
ないでしょうか。もちろん売春のほうも  
クオリティーがあがって、おもしろくな  
るかもしれないけど、それはまた別の話  
であって……

結局、売春が問題なのではなくて、き

わけです。刑法というのは、ある人の自  
由意思が他人の自由意思を侵害しないよ  
うに、という原理で決められているわけ  
です。  
それに対して、モラルは、自由意思を  
原則にしていて、しかも刑法にもふれて  
いないけれど、していいこと悪いこと  
がある、ということなんです。家族の中は社  
会人のモラルがある。両方とも生きてい  
くためには必要だし、みんな身につけて  
なければならぬわけですね。  
ところが、モラルははつきり形にでき  
ません。人それぞれ自分なりのモラルと  
いうものがあるわけで、自分なりのモラ  
ルでもって自分の人生を作っているわけ  
です。だから、自分のモラルに合致しな  
いからといって他人を非難することは無  
条件にはできない。  
無条件にはできないが、非難してもい  
い場合というのは、さっきも言いました  
けれど、同じ家族の中にいる場合です。

がさらに広がって他のもつとおもしろい  
選択肢が増えてくるか、この二つによつ  
て変えていくしかないんじゃないかと思  
うんです。できてしまった選択肢を消そ  
うと、いくらあがいても、理屈も見つか  
らないし、方法もない。  
でね、今は、本当におもしろい、自分  
が本当にやりたいと思えるようなことが  
不足しているんじゃないかと思うんです。  
だって実態として、売春というのは、そ  
んなにおもしろくないんだから。それよ  
りおもしろくて、やる値打ちがあつて、  
ついでに収入もあるようなことがたくさ  
んあれば、合理的に考えて売春なんてや  
らなくなる。たとえば「アーティストにな  
ると、売春婦になるのと、どっちを選  
びますか」と言ったら、みんな、アーチ  
ストのほうがいいと思えますよね。でも、  
残念ながら全員がアーティストになるこ  
とはできない。職業というのそういうも  
のです。だけど、ひとつひとつの職業の  
クオリティーがあがっていつか、おもし

ちゃんと自己決定してないことのほうが問  
題なんだと私は思う。売春を減らすこと  
が第一義的ではない。みんなが自己  
決定した結果、売春が増えたと、そ  
れはしかたがないでしょう。

(聞き手・怪書房編集部)